



昨年末より、第三日野小学校で実施されていたエコキャップ運動（ペットボトルのキャップを集めて地球の子供たちを救おうキャンペーン）で、集められたキャップを、横浜にあるボランティア団体まで届けに行きまして。

エコキャップ運動、キャップ納入（5月31日）

おやじの会の企画として、昨年末から収集を開始したペットボトルのキャップを、横浜市都筑区にあるペットボトルキャップ収集ボランティア団体「グループMATE（マテ）」まで届けに行きました。グループMATEの代表、大久保さんに、三日野で収集した5ヶ月分のキャップを引き渡し、これらのキャップがどのように再利用されるのかなどについて、お話を伺ってきました。



今回、届けてきたキャップの総数は約34,000個です。キャップの入ったビニール袋をはかりにのせて、その重さを量ります。計量の結果は約85kgで、1kgで約400個あるとのこと、換算すると約34,000個となります。

これらのキャップは、リサイクル業者に売られます。1kg当たり35円で買い取ってくれるそうです。このうち、25円は回収にかかる経費としてこの団体が管理し、残りの10円が「NPO法人・世界の子供にワクチンを日本委員会(JCV)」という団体に寄付されていくそうです。

今回の85kgで寄付される金額は850円。普段はなにげなく捨てられていくペットボトルのキャップですが、大勢の人が協力して、たくさんのキャップを集めれば、地球のどこかで困っている子供たちを救うことができます。

さて、回収されたキャップは、建材に利用されます。細かくきざんだキャップを板の間に溶かし込み、新たな素材のベニヤ板として生まれ変わります。ゼブラのボールペンでも、キャップが再利用され始めているとか。

「エコプライ」と呼ばれるこの建材は、廃木材と廃プラスチックを混合成型した、完全なリサイクル商品で、板一枚（180cm×60cm×12mm）を作るのに使われるキャップは約1000個だそうです。この板は、建物を建てる際に、コンクリートの型枠に使用される合板の代替品として利用されるそうです。



キャップを計量している担当者



この日に回収されたキャップ



ボランティアの大久保さんを囲んで

《編集後記》

ペットボトル本体のリサイクルは有名ですが、キャップのリサイクルはまだまだ始まったばかりです。ボトル本体も、キャップやラベルが付いたままではリサイクルが出来ず、そのまま埋められていくそうです。資源の有効活用、これからの世の中の重点課題ですね。 (文責山田)